

紙芝居

ごみとして捨てていた生ごみが、花や野菜を育てるための肥料に変わる、リサイクルの紙芝居。

「生ゴミゴンちゃん」

脚本：伊藤 節子

絵：井出 裕子



生ゴミゴンちゃん



ゴンちゃん：「じゃーん ほら 生ゴミからできた肥料だよ、バケツに入れて畑に持ってきたの。これを土にまぜるんだ、すると 野菜や果物が とてもよく育つんだ。」

カラスくん：「へえーすごいね、りんごもほーれんそーもおいしそう、全部食べたいなゴンちゃん、カーカー」

ゴンちゃん：「もう カラス君は 食いしん坊だなあ」

カラスくん：「ボクはゴンちゃんのこと 大好きだよ カーカー」

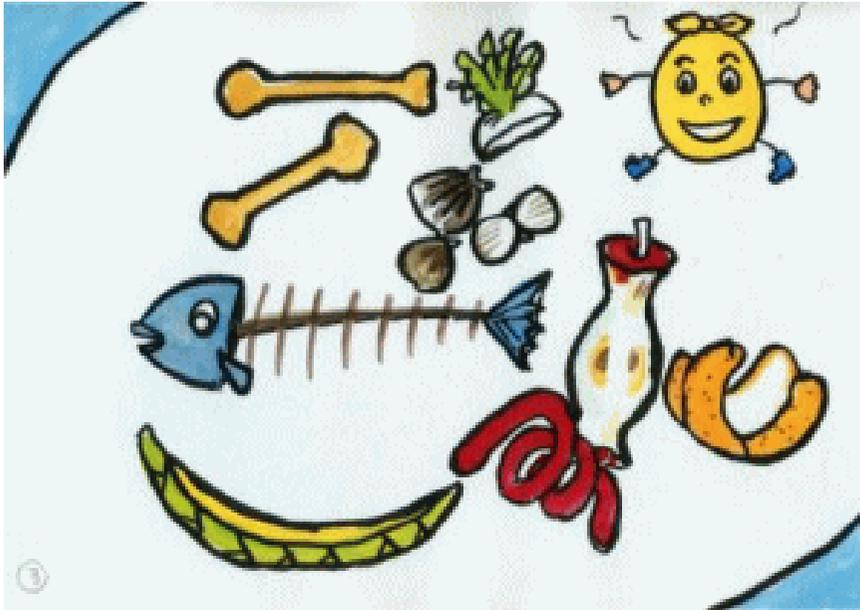
ゴンちゃん：「ちょっとそのカラス君！ 君が ゴミ集積所でボクをつつくからボクが嫌われているんだよ わかっているの！」

カラスくん：「ごめんゴンちゃん でもゴンちゃんって すごくおいしいんだもの、くさい匂いも ス、テ、キ」

ゴンちゃん：「やめてよカラス君、ボクは はじめから くさくて汚いんじゃないんだよ。はじめはボクだって とっても新鮮なんだから」

カラスくん：「えっ？ 生ゴミのゴンちゃんが 新鮮だって？ へんなの」





ゴンちゃん：「へんじゃないよ カラス君！ 野菜や魚のおいしい所は人間が食べるでしょ。残りが生ゴミになるんだよ。だからボクは、はじめから腐っていないんだよ、わかつた？」

カラスくん：「わかったよゴンちゃん、くさくて汚いなんていって ごめんね」

ゴンちゃん：「いいよ、友達だから 許してあげる。」

「ところで 紙芝居を見ている皆さん、ボクね、新鮮な生ゴミの時にあるものに生まれ変わるんだ、そしたらみんな ボクのこと好きって言ってくれるはずだよ。」

「じゃ魔法の粉を ちょいとかけて(透明版を入れて動かしながら言う)

チンプイプイノプイ みんなも一緒に言ってみて

チンプイプイノプイ 生ゴミゴンちゃん変身」



ゴンちゃん：「じゃーん ほら 生ゴミからできた肥料だよ、バケツに入れて畑に持ってきたの。これを土にまぜるんだ、すると 野菜や果物が とてもよく育つんだ。」

カラスくん：「へえーすごいね、りんごもほーれんそーもおいしそう、全部食べたいなゴンちゃん、カーカー」

ゴンちゃん：「もう カラス君は 食いしん坊だなあ」

その時 土の中から かわいいミミズのミミちゃんが 出てきました。

ゴンちゃん：「ミミちゃん、出てたの？ きょうもピンクのリボンが かわいいね」

ミミちゃん：「ありがとう ゴンちゃん」

ゴンちゃん：「物知りミミちゃん教えて、どうしてボクは生ゴミ堆肥に変身したの？」

ミミちゃん：「それはね、さっきの魔法の粉のせいよ。あの粉には 役にたつ小さな小さな生き物(微生物)が いっぱい入っているのよ。それが ゴンちゃんと混ざって エネルギーをたくさん出してくれたの。野菜が大きくなる栄養のもとに変わったのよ、つまり有機肥料に変身したのよ」

ゴンちゃん：「へえー うれしいな」

ミミちゃん：「他にもね、役に立つ小さな小さな生き物パワーで できるもの」(全部抜く) たくさんあるわ。お酒やしょうゆ、お味噌やチーズ、みんなの好きなヨーグルトもそうよ。体にとてもいいの。おかげで 私達ミミズも 元気いっぱいよ」

ゴンちゃん：「ボクがみんなの役にたつなんて、すっごくうれしいな」



ゴンちゃん：「じゃあ、生ゴミをそのまま土に埋めただけならどう？ その方が簡単でしょ」

ミミちゃん：「その方が簡単だけど、土になるまでには ながーくかかるわ、その間に腐ってきて、虫もわいて キーミミズも住めない、逃げなきゃー」

ゴンちゃん：「ミミちゃん 逃げないでよ あーくさいよー、さすがのカラスくんもおれちゃったよ。やっぱりめんどろでも 魔法の粉をかけて はやく有機肥料になった方がいいや」





ゴンちゃんは家に帰ってきました。

ゴンちゃん：「ただいま、お母さん これなあに？ ゴミ箱みたい」

ゴン 母：「これは 電気生ゴミ処理機よ、ここに生ゴミをどんどんいれると 生ゴミがサラサラになって出てくるの。それを土にまぜて使うのよ」

ゴンちゃん：「そうか わかったお母さん

さっきの 魔法の粉をかけて 土にまぜるやり方は、ゴミがたくさんで畑のある人、電気処理機を使う人は ゴミが少なくて プランターで育てる人がいいんじゃない、どっちを選ぶかは みんなのおうちに 合わせればね」

ゴン 母：「それ大賛成！

自分の家の生ゴミは、自分の家で始末する、捨てないで肥料にして役にたてましょう これってステキな生活ね。坂戸市から少しお金も出るから利用しなきゃ損よ」



ゴン 母：「ゴンちゃん みてごらん」

ゴンちゃん：「なあに？ ぞうきん絞っているの？」

ゴン 母：「残念 はずれ 三角コーナーの生ゴミでした。ぎゅう ぎゅうってしぼるのよ これおもしろいよ、けっこう 水がでるわ、ゴンちゃんもやってみる？」

ゴンちゃんは 汚いからいやだと思ったけれど、生ゴミがネットに入っているから 絞れました。お茶ガラからは おもしろいように しずくが ぼたぼた落ちました。

ゴン 母：「これだけ水分がなくなると 臭くないわ。おまけに これなら 焼却炉でも燃えやすいしね。坂戸市のお金の節約にもなるわ」



ブーブー 今日生ゴミの収集日。

おじさん：「ゴンちゃん お待たせ、さあ行こうか」

ゴンちゃん：「あっ 清掃センターのおじさんだ、今日もよろしく。

じゃ皆さん、ちょっとボク焼却炉まで 行ってきまーす」

でも ここから先のこと考えたことある？

ゴミは ゴミ集積所に出したらもう関係ないわと思いませんか？

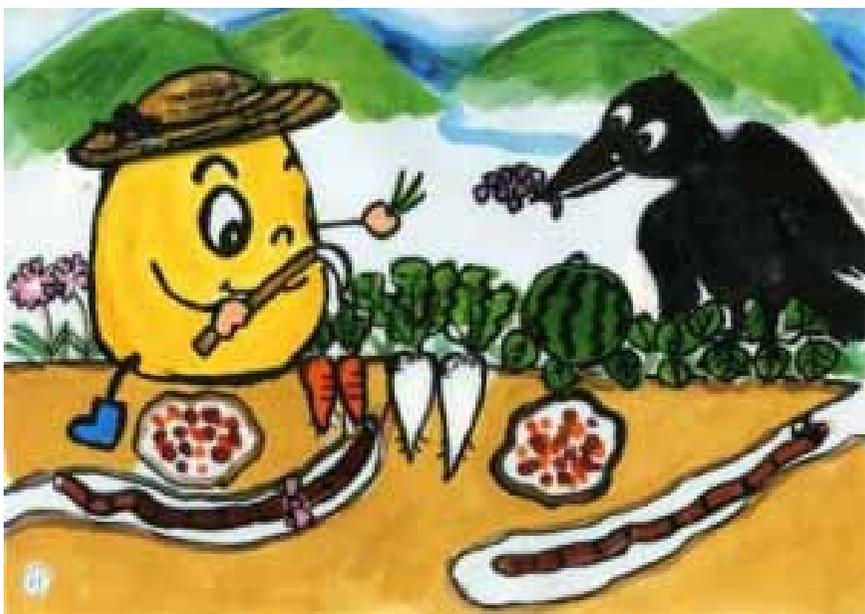


ゴンちゃん：「ボクはゴミ焼却炉で高い温度で燃やされているんだ。

たくさんのゴミをもやすから たくさんのお金がかかるんだよ。」

「燃やしたあとには何が残る？ そう たくさん灰、どうしているんだろう 知ってる？ これは ダンプで遠くまで捨てにいたり セメントにしたりするんだって。」

「こんなこと今まで考えなかったよ。みんなで 生ゴミを有機肥料にして減らしたら お金もかからないし 空気も汚さないのにね。どう思う？」



さて有機肥料に生まれ変わったゴンちゃんは 大張り切り。だって今まで嫌われていた生ゴミが みんなの役にたっているんですもの。

ゴンちゃん：「さあ立派なスイカができたよ これはおいしいぞ」

カラス君：「ゴンちゃん、いいのが出来たね。じゃあ こっちの野菜を 少しいただきますよ カー」

ゴンちゃん：「いいよ 少しずつだよ カラス君、だから もう生ゴミつかないでね。カラス君とは友達だから これからも仲良くくらさなきゃ、ミミズのミミちゃんも ずっと友達さ」

ミミちゃん：「そうよ、みんな友達、空を飛ぶカラス君も きれいな空気吸ってるし、ミミズの住む土の中もふわふわであったかいの、空も土もみんなつながっているのね」

ゴンちゃん：「そうなんだミミちゃん、空も土も そして人間もだよ、みんなみんなつながっているんだ、みんな一緒に生きているんだ」

おしまい